



緊急レポート

藪 暁彦

ついに姿を現した Netscape 2.0

10月7日夜、「Netscape(ネットスケープ)」の次期バージョン2.0のベータ版がついに姿を現した。現行バージョンにセキュリティ上問題があることが発覚し、その対応に追われていたネットスケープ社だが、予定から2週間遅れでベータ版の発表にこぎつけた。「ジャヴァ(Java)言語」への対応、メール送受信、インライン・プラグインなどなど、「ネットスケープ2.0」には数多くの新機能が盛り込まれている。これはまさしく、「state-of-the-art」従来のブラウザの常識を覆す新世代ブラウザの登場だ。



ネットスケープ2.0は、 インターネットの統合インターフェイス

「ネットスケープナビゲーター 2.0」(以下ネットスケープ2.0と略)の仕様が発表されたとき、資料を見て多くの人が注目したのが「ジャヴァ(Java)言語」への対応だった。ネットスケープにジャヴァが加われば怖いものなし、これこそ最強のブラウザだ、と誰も思ったに違いない。しかし、公開された2.0のベータ版を実際に使ってみると、注目すべき特徴はジャヴァだけではなく、ネットスケープ2.0は、極端な言い方をすれば、単にWWWブラウザというよりもインターネットの統合インターフェイスと呼ぶほうがふさわしいのではないかと。そう思うくらい、インパクトのある特徴をさまざま持っていた。

今回リリースされたのは、ウィンドウズ3.1、ウィンドウズ95やNT、マッキントッシュとUNIX用

のバージョン2.0b1。残念ながら、マッキントッシュ版とウィンドウズ3.1版はジャヴァ未対応だ。また、ウィンドウズ95/NT版とUNIX版には、ジャヴァ対応の2.0b1jと、ジャヴァ未対応の2.0b1nの2種類のバージョンがある。

2.0b1にはまだ使えない機能もあるし、バグも相当残っている。また、ちょっとした拍子に、ウンともスンともいわなくなってフリーズすることもある。そんな状態だから、正式バージョンである1.1や1.2から完全に移行する気にはなれないが、それでもなお2.0の魅力は十分に感じられた。

より快適でより統合的なブラウジング環境

ネットスケープ2.0に新しく搭載された機能は、情報をアクセスするとき威力を発揮するものと、ホームページを作成するとき威力を発揮するものの2つに大別できる。まず、ブラウザとしての特徴から紹介しよう。

電子メール

ネットスケープ2.0の大きな特徴の1つが、電子メールの送受信機能だ。従来のバージョンでは、簡単なメールを送信することはできるが受信はできない。そこになんとなく中途半端さを感じる一方で、ブラウザにメール機能が必要なんだろうかと思う気持ちもあった。が、実際にブラウザでメールのやり取りまでできるようになってみると、やはり便利でいい。

ネットスケープの「Window」メニューからウィンドウズ版では「Netscape Mail」を、マッキントッシュ版では「Mail」を選択すると、ブラウザウィンドウとは別にメールウィンドウが開く。ここで、メールを管理するのだ。ウィンドウズ版とマッキントッシュ版でメニュー名が違っているが、こうした不一致はほかにもある。ま、ベータ版だから仕方ない。正式バージョンまでには、統一されるだろう。

このウィンドウを開いた状態で受信アイコンをクリックすると、POPサーバーにログインして着信メールをチェックし、送信アイコンをクリックすると、メッセージ作成ウィンドウが開く。なお、「File」メニューから「New Mail Message」を選択しても、メッセージ作成ウィンドウが開かれる。

メールアドレスの入力を簡略化するアドレス帳(Address Book)を作れ、メールを内容別に別々のフォルダに分類する機能もある。メール専用ソフトと比べると機能的には物足りないが、ネットスケープ2.0のメール機能の特徴はそれとは別のところにあった。メッセージ中にURLが書かれていると、そこがハイパーリンク表示されるのだ。そ

してその部分をクリックすると、ブラウザウィンドウがアクティブになり、指定されたホームページにアクセスする。それだけではない。現在のバージョンではまだできないが、正式バージョンまでにはメッセージ中にHTMLのタグを埋め込むこともできるようになるらしい。

ネットニュース

従来版でもネットニュースを読んだり、ポストしたりすることはできたが、バージョン2.0になってインターフェイスが一変された。メールと似た画面デザインに変更されたのだ。

ウィンドウズ版では、「Window」メニューから「Netscape News」を選ぶとニュースウィンドウが開く。このウィンドウ上部左側にネットサーバーとニュースグループが表示され、その右側に選択したニュースグループの記事の差出人やサブジェクトが一覧表示される。そしてウィンドウ下部に、選択した記事が表示される。メール同様、ニュースのメッセージにもタグを埋めることができるのだが、現在のバージョンではまだ対応していない。

セキュリティ

ネットスケープの大きな特徴にセキュリティ機能がある。この2カ月ほどの間にネットスケープのセキュリティが2度も破られるという事件が起こったが、その結果、セキュリティの重要性が再認識されることになった。災い転じて……ではないが、ネットスケープ社にとっては不幸中の幸いだったのかもしれない。それはともかく、従来のネットスケープのセキュリティはHTTPに対してのみ機能していたが、2.0ではメールやネットニュースにもセキュリティ機能が働くようになった。

今年7月、ネットスケープ社はプラットフォームに依存しない「デジタル・エンベロップ」のプロトコル「Secure Courier」を発表した。便せんを封筒に入れるように、メールなどのメッセージをむき出しでやり取りするのではなく、「デジタル封筒」に包んでセキュリティを確保しようというのが、デジタル・エンベロップだ。ネットスケープ2.0は、このSecure Courierを利用できるほか、メッセージそのものに暗号をかけてセキュリティやプライバシーを守るS/MIME(secure MIME)にも対応している。

さらに、「インターネットのドライバース・ライセンス」と呼ばれる、米国ベリ・サイン社の「デジタルID」にも対応した。ベリ・サイン社が発行するデジタルIDには、セキュリティの度合いに応じて3段階のレベルがあり、もっともセキュリティ度の低いレベル1のIDは、年間6ドルで発行してもらえる。

……と、ネットスケープ社の資料に書いてあるが、バージョン2.0b1を見るかぎり、暗号化処理を施すためのメニューやコマンドは見当たらない。

プログレッシブJPEG

これまでのネットスケープは、GIFとJPEGフォーマットの画像データをインライン表示することができた。2.0はこれらに加え、「プログレッシブJPEG」フォーマットにも対応。GIFに比べて高画質の画像が扱えるようになった。しかもProgressive JPEGは、GIFや通常のJPEGに比べてロード時間が短い。GIFの3分の1の時間で、データをロードできるという。モデムを介して接続するダイヤルアップIPユーザーにとって、とくに嬉しい機能だ。

ウィンドウズ版には、画像を1枚だけしか使っていないページでは、その画像用にカスタマイズされたカラーマップをインストールする、「シング

ルカラーマップ」と呼ばれる機能も加わった。これにより、画像はよりクリアでより滑らかに表示されるようになる。またウィンドウズ版には、画像に応じてディザ処理をするかしないかを自動的に判断する「自動ディザリング」機能も加わった。

新しいメニューバー

メニューバーの構成も変わった。いままでなかった「Window」メニューが新たに加わり、ここから新しいブラウザウィンドウやメールウィンドウ、ニュースウィンドウを開くようになっている。

これにともなって他のメニューにも変更が見られるが、もっとも大きく変わったのが「Options」メニューだ。これまでの「Preferences」が、「General」、「Mail and News」、「Network」と「Security」の4つのサブメニューに分割されたのだ。各サブメニューを開くと、バージョン1.2と同じデザインのダイアログが表示される。1.2を通り越して、いきなり2.0がリリースされたマッキントッシュユーザーは、このダイアログにも目新しさを覚えるに違いない。

ウィンドウズ3.1のファイルマネージャーに似た「しおり(Bookmark)」のインターフェイスや、ブラウザウィンドウとは独立したダウンロード・ウィンドウなども、マッキントッシュユーザーにとっては目新しい機能だろう。

さらに表現力が増したページ作成機能

「ネットスケープ対応」とクレジットの入ったホームページが増えている。他のブラウザと互換性のないページが増えたことによる弊害もあるようだが、2.0にはさらに互換性をなくすような新しい機能がいくつも加わった。ブラウザの事実上の

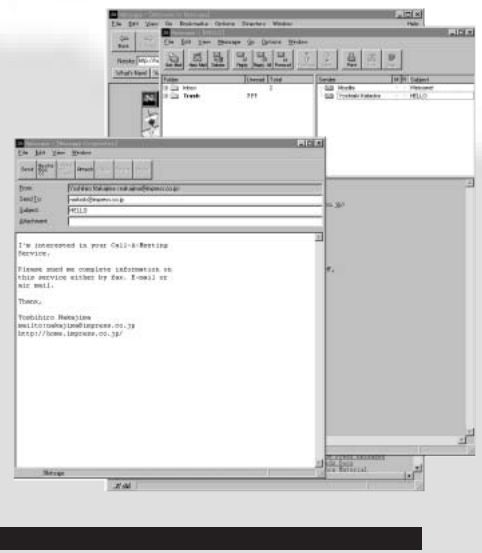
① 電子メールが読める。しかもHTMLで書かれたメール



② メールの中にURLが書いてあれば、ブルーで表示され



③ 電子メール送信の画面



標準の地位をますます強固に固めようとするネットスケープ社だが、こうした新しい機能を使うことによって、ホームページ・デザインの表現の幅が大きく広がることは、間違いなさそうだ。

Java 言語

C++に似た言語で書いたプログラムが、ブラウザのウィンドウ内で動く「ジャヴァ (Java)」。待ちに待った機能が、ついにネットスケープでも利用できるようになった。ジャヴァ言語で書いたプログラムをアプレットと呼ぶが、「ホットジャヴァ (HotJava)」用に書かれたアプレットは、ネットスケープでは動かない。「ホットジャヴァ」が「ジャヴァ」のアルファ・バージョンなのに対して、ネットスケープの「ジャヴァ」はプリ・ベータ・バージョンで、両者には互換性がないのだそうだ。「ジャヴァ」のホームページには、ネットスケープ対応のデモ用アプレットが数多く登録されている。だがうまく動かず、ネットスケープが強制終了してしまうこともしばしば。まだ雰囲気を楽しむ程度、と考えたほうがいいかもしれない。

インライン・プラグイン

ネットスケープも含め従来のブラウザは、テキストと一部フォーマットの画像しかウィンドウ内部に表示できなかった。そこで、それ以外のフォーマットのデータは、専用のアプリケーションを起動して再生したり、表示したりすることになる。ところが、ネットスケープ2.0ではヘルパー・アプリケーションが不要になり、どんなフォーマットのデータもインライン処理できるようになるのだ。もちろん無条件にはなく、それぞれのデータ・フォーマットに対応したプログラムが必要だ。こ

れを、「インライン・プラグイン」という。

すでにアップル社がクイックタイムムービー用、マクロマインド社がディレクター用、そしてアドビ社がアクロバット用プラグインの開発を進めている。さらにカライダ、ノベル、プログレッシブ・ネットワーク、7thレベル、シリコングラフィックス、テンプレート・グラフィックス・ソフトウェア、ボーカルテックなど、数多くの企業がプラグインの開発を表明している。リアルオーディオ、インターネットフォンやVRMLをはじめ、それこそゲームからビジネスソフト、グラフィックソフトまで、ありとあらゆる分野のソフトが、ネットスケープ上で動くようになる可能性大なのだ。

ライブ・スクリプト

「ジャヴァ」と「インライン・プラグイン」だけでも十分衝撃的だが、ネットスケープ2.0にはスクリプト機能まで加わった。ジャヴァをベースにして開発された「ライブ・スクリプト」と呼ばれるスクリプト言語でプログラムを書き、これをHTMLドキュメント内に置いておけば、そのページがアクセスされたときにプログラムが実行されるのだ。資料によると、ジャヴァに比べてプログラムを書くのは簡単らしい。

電卓や時計、あるいはフォーム入力されたデータのチェックなど、単独で動作するプログラムのほか、ジャヴァやインライン・プラグインと連動して動くようなプログラムも作成できる。

フレーム

これまでのブラウザは、ウィンドウ内にHTMLドキュメントを1つしか表示できない。しかしネットスケープ2.0は、複数のドキュメントを表示で

きるようになった。これを「フレーム機能」といい、各ドキュメントをフレーム・セルと呼ぶ。たとえば、目次を常にウィンドウ左側に表示させたり、ISMAPをウィンドウ下部に表示させておくことができるのだ。しかも、各フレームセルは個別にスクロールさせることができる。この機能を使えば、かなり多彩なホームページをデザインできそうだ。

このようにページ構成が複雑になったため、「View」メニューに、ページ構成をチェックする「by Document Info」というコマンドが新しく加わった。

また、2.0ではウィンドウに名前を付け、特定のドキュメントを指定したウィンドウに表示させることができる。なお、そのウィンドウが開いていない場合には、新しいウィンドウを開き、そこに指定した名前が付けられる。

フォントカラーとサイズ

バージョン1.2までは、ドキュメント全体にわたってテキストの色を指定することができた。ところが2.0では、特定範囲のテキストの色を変えることができる。FONTタグでCOLORアトリビュートを設定するのだ。色はRGBで表し、たとえば

```
<FONT COLOR="#FF0000">赤</FONT>
```

とすると、タグで挟まれた範囲の文字が赤で表示される。

上付き文字 (superscript) や下付き文字 (subscript) も表現できるようになった。SUPタグで挟んだ部分が上付き文字になり、SUBタグで挟んだ部分が下付き文字になるのだ。

また、特定のブロックを、ウィンドウ内で左揃

4 ネットニュースリーダー



5 プログレッシングJPEGが圧倒的に速い



6 新しくなったオプションメニュー





えにしたり、センター揃え、右揃えにすることもできる。この位置指定には、HTML 3.0でサポートされるDIVタグとALIGNアトリビュートを使う。ALIGNで指定した値が「left」なら左揃え、「center」ならセンター揃え、「right」なら右揃えになる。ホームページの表現が、また一步ワープロに近づいたわけだ。

クライアントサイド・イメージマップ

クリックした位置によってアクセスする場所が決まるISMAPを使ったページは、もう珍しくないところだが従来のISMAPにはサーバー側の処理が必要だったため、誰でもこれを利用するわけにはいかなかった。なんとかサーバーの助けなしで、ISMAPを作れないものか。こうした要望に応えてくれるのが、「クライアントサイド・イメージマップ」だ。

スパイグラス社が開発した「エンハンスド・モザイク」にはすでにこの機能が搭載されており、バージョン2.0から Netscape でもこれが使えるようになったのだ。

フォーム入力の改善

それほど派手な機能ではないが、フォーム入力にファイル・アップロードの機能が加わったことも見逃せない。

感想を求めるホームページが増えているが、いままではオンラインでメッセージを入力しなければならなかった。刻々と電話代や接続料が加算されるダイヤルアップIPユーザーにとって、これはつらい。でもファイルアップロードの機能があれば、前もって書いておいたメッセージをアップロードすればいい。これで、気楽に感想を書き込める。

フォーム入力でメッセージなどを書き込むとき、

これまでは長い文章を入力しづらかった。ダイアログの幅を超えても、ワードラップ(行の折り返し)してくれなかったからだ。2.0にはワードラップ機能が加わったから、メッセージもずいぶん入力しやすくなっている。こんなちょっとしたところにも、ユーザーフレンドリーな機能が加わっているのだ。

バグに見舞われた挙げ句の果てのバグ探しコンテスト

Netscape 2.0は、ホームページの表現力が増したぶん、HTMLの判定が厳しくなった。これも、新バージョンの特徴の1つだろう。特に厳しいのが、引用符(“)だ。タグのアトリビュートで設定する値は、引用符で囲まなければならないのだが、これが案外忘れやすい。これまでは引用符を付け忘れても、とりあえずは思ったとおりに表示してくれた。だが2.0は、こうしたミスをいっさい許してくれない。ミス以降の部分がメチャクチャになり、画像やテキストが表示されなくなってしまうのだ。Netscape 2.0は、HTMLの文法チェックにも使えるかもしれない、……。

それにしても、2.0b1のリリース前後はあわただしかった。まえにも書いたが、リリース直前になって、前バージョンのセキュリティに問題があることが発覚したのだ。それが一段落して2.0b1をリリースした直後、今度はジャヴァにセキュリティの問題があることがわかった。そのためいったんは配布が始まった2.0b1が、Netscape社のFTPサーバーから姿を消した。翌日には問題を解消したバージョンがサーバーに登録されたが、Netscape社にとっては胃の痛い数日間だった。

たに違いない。

もうこんな思いをするのは嫌だと思ったのが、ネットスケープ社は興味深いイベントを発表した。名づけて「Netscape Bugs Bounty」。バグ探し大会だ。もちろん商品付きで、いままで発見されていないバグを見つけ、一番乗りでネットスケープ社に報告すると、そのバグの程度によってネットスケープのロゴ入りマグカップやボロシャツがもらえるのだ。そしてセキュリティ上のバグを発見した場合には、1000ドルの賞金が与えられる。我こそはという人は、チャレンジしてみてもどうだろう。

参考URL

Netscape Now (Netscape 2.0b1の入手)

トラフィック軽減のため、国内のミラーサイトからダウンロードしてください。
<http://home.netscape.com/comprod/mirror/index.html>

Introducing Netscape Navigator 2.0 and Netscape Navigator Gold 2.0

(Netscape 2.0及びNetscape Gold 2.0の概要)
http://home.netscape.com/comprod/products/navigation/version_2.0/index.html

Release Notes

(各バージョンのリリースノート)
<http://home.netscape.com/eng/mozilla/2.0/relnotes/>

VeriSign (Digital IDの情報)

<http://www.verisign.com/>

Cool Applets We've Written (Beta)

(Netscape 2.0b1jで見られるアプレット一覧)
<http://www.javasoft.com/applets/applets.html>

The Netscape Bugs Bounty

(Netscape 2.0バグ探しコンテストの詳細)
http://home.netscape.com/comprod/products/navigation/version_2.0/contest_rules.html

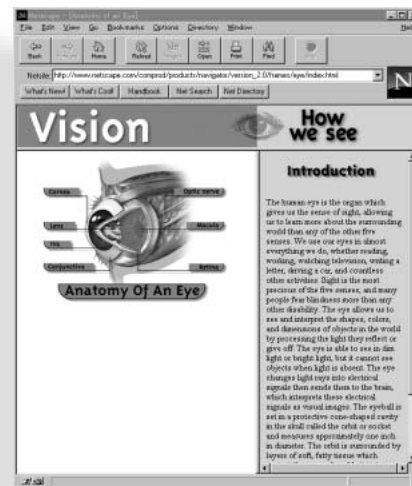
7 ジャヴァ言語を使ったページの例



8 ライブ・スクリプトを使ったページの例



9 フレームを使ったページの例





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp